

# 本音 DE ゆうとーみー

## 生け石 VS 民族音楽

**ロビン** 「生け石」って初めて聞く言葉なんですけど、どんなアートなんですか？

**スティーヴン** 分かりやすくいうと生け石の石版。英語でいうとストーン・アレンジメントです。いろんな国を旅して集めた石たちを組み合わせて、ひとつの表現を作り上げます。基本的にはペーパー・ストーンを用います。ふたつの石をお見合いさせて、うまく調相すれば結婚させるんです。私は石と石の仲人です。

**ロビン** 楽しそうですね。結局しちゃうこともあるんですか？

**スティーヴン** ええ。国籍も種類も大きさも年代も違う石を合わせるわけですから、私も慎重に事を運びます。お見合いしてから数日間はそのまま置いて、時間や日を変えて何度も相性を確認します。石との対話ですね。さらにふたりを飾る台も、砂や流木、葉など、さまざまにアレンジします。作品は販売していません。「生け石」は私の楽しい趣味

番組初の外国人同士の顔合せ。生け石彫作家であり、俳人でもあるスティーヴン・ギル。管・弦・打の民族楽器をマルチに奏でるロビン・ロイド。英と米、国籍を異にするふたりが「アート」「京都」「地球を横断」など共通項を通じてトークに花開かせていく



第11回の舞台は京都コンサートホール1Fのフレンチレストラン「ラ・ミュージック」。文化的なムードの中で対談は、ゆったりとやかに進む。示し合わせたかのように、西人アジアの民俗衣装をまとっての登場も印象的。自然体トークにも和んだリドキッとしたり

**ロビン** 日本には石庭というのがありますが、そんな文化に魅かれて京都に？

すし、小さくて軽い楽器ですから、こたつに入っても、道端でも、どこでも誰でもすぐにトライできるのが魅力です。でも、上手く弾くのは難しい。それに地

**スティーヴン** 最初は松尾芭蕉です。生け石アートをオリジナルに始めた頃に、俳句にも興味を持って、ずっと勉強していったんです。日本に来る前に3、4年かけてアジアを横断。俳句と石の両方を探る「俳石」の旅です。そして行き着いたのが京都だったんです。それから何度か英国と日本を行ったり来たりしていますが、今は立命館大学で講師をしています。ロビンさんは京都のどちらにお住まいですか？

**ロビン** 銀閣寺の南隣です。ほくも時間を見つけては旅に出かけますが、拠点は京都。80年代ぐらいから住み着いてるんで、かなり長いですが、カリンバ、尺八と多彩。ここで学ばれたんですか？

**スティーヴン** 民族楽器を演奏されるということですが、カリンバ、尺八と多彩。どこで学ばれたんですか？

**ロビン** もう世界中です。今まで10近い国を旅しました。カリンバはアフリカの民族楽器。両手の親指ではくだけただけで音は簡単に鳴ります。そして、小さくて軽い楽器ですから、こたつに入っても、道端でも、どこでも誰でもすぐにトライできるのが魅力です。でも、上手く弾くのは難しい。それに地



生け石彫作家・俳人  
スティーヴン ギル  
STEPHEN GILL

53年英国コークシャー生まれ。オリジナルアート「生け石（ストーン・アレンジメント）」を築き、展覧会や講演、ワークショップなど、積極的に活動中。また、17歳の頃から俳句を学び、現在は英国俳句協会会員。BBCラジオの基本や翻訳を手掛け、立命館大学文学部の講師も務める。昨年「松尾芭蕉の研究本「Rediscovering BASHO」を編集



3年前に出展した作品のひとつ。左の石は1001年頃に英国で、右は1983年頃に日本・日光で、流木は1996年に星久島で出会ったもの。ペーパー・ストーンの制作の過程が見える



民族楽器奏者  
ロビン ロイド  
ROBBIN LLOYD

56年米国イリノイ州生まれ。幼少の頃から多彩な楽器に親しみ、高校時代に民族楽器と出会う。大学卒業後に東京、長門三味線や尺八、琴を学ぶ。その後京都を起点に台湾や中国、アフリカ、チベットなどでフィールドワークを展開し、アフリカの親指ピアノ・カリンバなど多くの民族楽器を習得。管・弦・打を駆使するマルチプレーヤーとして活躍中



今春発売のCD BOOK「Songs Echo 01」。「アルバム・スタッフの選」をはじめ、3曲を収録。ライナー・ノーツの写真や文章も自作。見て、聴いて、読んで、考えて、触って、買って味わえる、プレゼントのような作品なのだとか

取材地/La Muse (ラ・ミュース)



カフェを併設した居酒屋スタイルの「ラ・ミュース」は、コンパニオンの若い男女が中心で、マリアージュの料理とワインを楽しむ「大人の遊び場」を目指している。



### ディナーコース3800円

**前菜** 自家製コーストビーフをはじめ、10〜15種を用意。好き不好きの好みをわけてお出しし、お楽しみになるビュッフェスタイルで楽しめる。  
**メイン** 肉料理または魚料理（年間の魚の旬、糖のボウル、季節によって変わる）  
**デザート** 自家製3〜4種類の白甘  
**パン** 数種  
**飲み物** コーヒーまたは紅茶

**ワイン** サブリー・ダブロー（白、フルコーニュ、1995年産）3900円

### シェフ 水野康史さん



70年京都生まれ。堺市で定食屋を営む家に生まれ、幼い頃から京都の漬物や魚など、食材の目利きを学ぶ。「ラ・ミュース」にはオープンから勤務。野菜をたっぷり盛り込んだバランスの良い一皿を、創造性を駆使して提案する。とくに魚介を使った料理に定評がある。

京都市左区下鴨中通北山下下鴨半木町1-26  
京都コンサートホール1F  
TEL.075・712・2710  
カフェ11:00〜23:00  
ランチ11:30〜L.O.14:00  
ディナー17:00〜L.O.22:00  
/第1・3月休 ※ランチは1800円



「本音DEゆうと〜ム〜」は、衛星放送局・京都チャンネルと本誌CFが共同制作するメディアミックス企画。京都人の本音トークを通じて、京文化の楽しみ方や日常生活の応用、ビジネスへの活用方法を伝えるのが目的だ。第11回の「ステイヴン・ギルvs.ロビン・ロイド」は京都チャンネルで4/14より数回にわたって放映されている。

企画・制作/京都チャンネル 月刊「CF(シー・エフ)」  
構成・演出/「本音DEゆうと〜ム〜」HONNE DE YOU TO ME 企画プロジェクト  
●資料請求・質問はスカイパーフェクTV! カスタマーセンターまで。TEL.0570・039・888

## 京都は自分を大切にすべき

**ロビン** 京都に来る外国人は、現代より室町時代や江戸時代の京都に興味がありますよね。  
**ステイヴン** 大抵はそうでしょうね。任天堂の本拠地が京都だからって、訪れる人は少ないでしょう。実際に外国における京都の宣伝も、芸妓・舞妓であったり、寺社仏閣であったりしますからね。誰も京都タワーがあると想像もしていない(笑)。  
**ロビン** ほくも初めて京都に来た時に、京都駅から嵐山や東山には求めるものがありました(笑)。でも嵐山や東山には求めるものがありました。今住んでいる家は昔ながらの日本家屋。ステイヴンも京都に住むならマンションじゃ嫌でしょう。  
**ステイヴン** もちろん。最初の日本滞在の1年間は、かなり古い木造建築でした。山から嵐が降りてきて、木から私の家の屋根へ飛び移ってくるんです。

**ロビン** ほくも過酷な生活は遠慮したいですが(笑)、季節感のある場所、日本ならではの家庭に住みたい。それが作曲や音作りの面でもプラスになっていますから。  
**ステイヴン** 季節感、シーズンフィードバックの豊かさは私にとってもおおいに大切です。京都は季節がはんとおおいに深い。とくに秋は涙がでるほど観る感じ。そんな風景ある風景が私には本当に好きです。ただ今、向こうに山々、手前には電信柱や看板。大型ゴミは予約してお金を払わないと取りに来てくれないからと、山のふもとにいっぱい捨てられています。しゃぼん玉(バブル)みたいに、空中に浮いて

た作り物の都市のような環境じゃないから、東京でなく京都を選んだわけですが、これでは台なし。自然の季節感とか、風流とか、空と無の世界を体験できると思っていました。ちよつと違いましたね。  
**ロビン** ドイツやフランス、イギリスは景観に敵しいです。  
**ステイヴン** ええ。我々にはうるさくてやかましい人種ですから、もし好きじゃない看板を立てば、すぐに文句を言いにいく。だから法律の問題ばかりじゃないんです。それに比べて京都の人は我慢強い。もつと風流な風景を積極的に守ってほしいと切実に思います。  
**ロビン** 環境を含めて京都のこれからの考えると、ほくは若い人において期待したいと思っています。将来を見据えて新しいことに取り組むことはいいことだと思います。でも、せつかく京都には歴史もある。古きよきものをすべて捨てちゃうのでは

なく、両方を上手く結びあわせていってほしい。  
**ステイヴン** そうですね。垣根を作る守り方ではなく、もつと自由な発想で京都の美観を保つたり、新しいエネルギーを京都で起こしていってほしいですね。もちろん、将来を若い人に押し付けちゃらんじやなく、私たちが何かやっていると受け取らなければ。そのひとつが俳句であり、生け花であり、そして今日みたいに口うるさく言ったりすることでしょうか(笑)。  
**ロビン** それもあります(笑)。例えば、音楽と右や俳句の共通点はどうでしょう。楽しさだけじゃなく、メッセーj性も倍になりますよ。  
**ステイヴン** いいですね。ぜひ今度、正式なコラボレーションを実現しましょう。

